

藤医会

2025年 冬号 Vol.43

2026年1月発行 年2回発行

藤医会会報

藤田医科大学医学部同窓会
藤田啓介総長生誕100周年記念号

目次

2025藤田学園ホームカミングデーおよび藤医会二次会開催のご報告	P2
支部会員訪問	P3
藤田医科大学ばんだね病院 消化器内科 病院教授を拝命して	P5
支部会だより	P6
同窓会開催報告	P9
第32回全国私立医科大学同窓会連絡会(西部会)参加報告	P10
第33回全国私立医科大学同窓会連絡会(全国会)参加報告	P11
藤医会総会・教授就任記念講演会・懇親会のお知らせ	P12
藤医会名簿のお知らせ	P12

藤医会・・・

本学医学部卒業生（正会員）と大学院医学研究科卒業生（大学院卒業会員）ならびに在學生（学生会員）により運営されている同窓会組織です。1978年に第一回目の医学部卒業生の誕生と同時に設立されました。設立の目的は「会員相互の親睦と交流を図り、母校の発展と医学・医療の振興に貢献すること」にあります。おもな活動には会誌の発行、会員名簿の作成、教育・学術講演会の企画、懇親会の開催などがあり、会員間の情報交換の促進をはかり、親睦を深めることに寄与しています。そのほか、在学生の学習環境の整備と課外活動の充実を目的とした援助をおこなっております。今後も、会員サービス、後進の支援、母校への協力を三本の柱として活動していく予定です。

2025藤田学園ホームカミングデーおよび藤医会二次会開催のご報告

藤医会の皆様におかれましてはお忙しい日々をお過ごしのことと拝察申し上げます。

さて、このたび、2025(令和7)年10月25日(土)に、2025藤田学園ホームカミングデーを、開催させて頂きました。今年は「故 藤田啓介総長生誕100年」に当たる年を謳ってアナウンスさせて頂いたところ、467名という多数の皆様にご参加頂くことができましたので、報告させて頂きます。

藤田学園同窓会 会長 松山裕宇(6回生)



ホームカミングデー開催内容

開催日 2025(令和7)年10月25日(土) 午後6時～

場 所 ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋

参加者 467名 医学部:58名、看護専門学校:18名、医学技術専門学院:13名、
短大:94名、衛生学部・医療科学部・保健衛生学部:258名、学園役員・職員:20名

私ども同窓会は、藤田学園の応援団というスタンスで活動して参りましたので、多数のご出席を頂きましたこと、大きな応援、力を頂いたこと、この場をお借りして御礼申し上げます。

私は、2005(平成17)年 2月26日～2015(平成27)年 2月28日まで藤医会会長、その後、2016(平成28)年から現在まで藤田学園同窓会会長職をさせて頂いております。その間、大学行事は勿論、藤田啓介先生のひととなりに触れる機会も多々頂きました。それまで自分なりの座右の銘を持っておりましたが、同窓会活動をするにつれて、藤田先生の人生の一つ一つが自分の座右の銘にもなっていました。

いつもお伝えしておりますように、1)「我ら、弱きひとびとへの無限の同情心持て、片時も自己に驕ることなく医を行わん」、2)「少しくらい寒くてもじっと我慢を、少しくらい幸せでもじっと祈る心で」、3)「負けてたまるか、りすにひとりごちけり七栗の谷」、これら3つの言葉を藤田の卒業生の心として伝えることを使命としております。

ただ、学ぶべき作法は他にもございます。ここに、かつて藤田総長と時を過ごされた卒業生の皆様からお聞きしたエピソードをいくつかご紹介させて頂きます。

文面も少し長くなりますが、生誕100年ということでお許しください。

1)教育の場における作法

1-1)「お辞儀」と「書」

39歳で学長・理事長になられた藤田総長は必然的に人と会う機会が多くなり、美しいお辞儀を心掛けられ、ご自宅と執務室の姿見の前でお辞儀の練習をされました。

そして、若い頃は悪筆で文字を書くのが嫌だったのですが、書類や原稿執筆、署名する機会が激増し一念発起、「書」のお手本書籍を求められ、時間を見つけては練習されました。学園創設から10年ほど経った生薬研究塾の執務室でもなお、書字の練習をされているのを拝見する機会があったようです。キャンパスの看板は全てご自分で書かれ、生薬研究塾や合同校舎藤田会館の看板は

珍しい「篆書(てんしょ)」で書かれています。

1-2)「負けたと手を挙げない限り、この世の出来事は死ぬまで勝敗は分らない」

藤田総長は1964年に学校法人藤田学園を設立し、南愛知看護専門学校を開校して以来、矢継ぎ早に名古屋衛生技術短期大学、名古屋医学技術専門学院、そして1968年には名古屋保健衛生大学衛生学部を開学されました。息つく暇もなく医学部開学の準備を始められ、教育病院として桶狭間病院の改修、坂文種病院との提携、教育施設・資産としての七栗学綜の活用、資金繰りなど万端の準備を進められました。残念ながら、申請1年目は認可見送りとなりました。しかし諦めることなく、辛抱強く、文科省の指導に従い、これでもかと突きつけられるあらゆる難題を一つずつクリアされ、翌年の1972年4月に医学部を開学されました。総長先生は政治家やコンサルタントの手は一切借りず、藤田学園の教職員の力のみで成し遂げられました。この数年間を振り返り亡きお父上の常套語を引用され、そして国家試験の重圧に押しつぶされそうな学生にも度々教え説かれました。

1-3)休講のない大学

一般的に新設の大学ではどうしても外来講師が多く、講師の都合で休講が発生するのが当たり前でした。大学生になったらと学生もそれを期待していました。ところが、講義が休講になると衛生学部長が現れ、実習が始まると藤田学長(総長)が現れました。しかも短大の講義や実習と掛け持ちという離れ業でした。藤田総長は「学生活動は無償どころか有償である」「大事なお子さんを預かった以上、親御さんに申し訳が立たない」と仰り、藤田総長にとっては「休講を無くすこと」は当然のことでした。

2)研究の場における作法

2-1)正確に速く、そして美しく

藤田総長は口癖のように、「実験・検査は正確に速く、そして美しく!」と学生と若手教職員を指導されました。

検査データは先ず正確でなければならない。しかし報告が治療に間に合わなければ意味が無い。そして正確なデータを速く出すためには実験者の姿勢が美しくなければならない。実験器具はもちろん実験機、実験室が清潔で美しくなければならないと説かれました。生薬研究塾での藤田総長のまっすぐな背筋、垂直なホールビペット、手際の良い実験は、まさにその模範です。

2-2) 供覧実験と実験・実習書

藤田総長は複雑な実験手技を要する実習時には必ず供覧実験を行い、学生に手本を示されました。しかしながら一度見たからと云っても誰もがうまく出来ることはありませんでした。そこで藤田総長は岩手医科大学病院時代からしたためていた実験・実習手技の一手一投足の全てを写した写真と、独自に考案した操作図を組み合わせた実験・実習書を作製されました。臨床検査学を学ぶ学生と検査技師、研究者にとっては絶大なバイブルです。獨創一理祈念館「邂逅(かいこう)の場」に本に収めきれなかった多数の写真とノートが書類ロッカー数台に保管されています。

3) 音楽・芸術

～10台の教育用グランドピアノより1台のベーゼンドルファーピアノ～

藤田総長は学生や教職員に一流の芸術に親しんでもらうためにオーディトリウムを建設することを発意されました。そしてそこに1台のピアノを求められました。そのピアノはドイツのベーゼンドルファー・インペリアルというピアノでした。音楽担当の教員はヤマハのグランドピアノが10台も買えます。学生にとってピアノ台数が多い方が喜ぶのではと進言されました。その当時日本には未だ数台しか存在しない高価な世界の名器でした。最初のコンサートは世界的にはまだ無名だったフランス・クリダさんが弾かれました。フランス・クリダさんは、直ぐにフランスを代表する世界的ピアニストに成長されました。以来、度々学園で演奏されています。このピアノがフジタホール2000に存在することで、たくさんの著名なピアニストやオーケストラが来学し、我々が世界的な音楽・芸術に接するという恩恵を受けています。世界で淘汰されてきたクラシック音楽を通して、文字通り「一流の芸術が一流の人を

育てる、医療人の心を育てる」を実行されました。

4) 食欲のない者に未来はない。

～満腹のおもてなしと大音響のクラシック鑑賞～

藤田総長は生薬研究塾を訪れた学生、若い教職員、お客様に、「食欲のない者に未来はない」と仰り、満腹のおもてなしをされていました。また天気が良ければ、七栗谷の芝広場でバーベキューをしながら、大音響でクラシックを楽しんでおられました。夜が遅くなると近隣から苦情が来ることもありました。

5) お見送り

藤田総長は毎年末にフジタホール1000において学園の教職員と1年間お世話になった業者の方々を招待し、「忘年望年会」を開催しました。乾杯のセレモニーが終わると、教職員はもちろん特に建築関係の業者の方々が列をなして総長先生に挨拶に来られましたが、総長先生は「此処へ並ばないでください。私がそちらへ参ります。」とアナウンスされました。食事もそこそこに、案内役の教員と一緒に各テーブル毎に丁寧にお辞儀され、一人一人にお声をかけておられました。総長は各テーブルで殆どの人のお名前とお顔、配属部署、そして業者の会社を覚えておられ、和やかに労っておられました。

そして、藤田総長は七栗学綜を訪れたお客様、そして学生たちが乗ってきた自家用車、タクシー、バスが帰れる時に丁寧にお辞儀され、そしてその車やバスが見えなくなるまで教職員の先頭に立ち手を振って見送られました。

まだまだお伝えしなければならないことはたくさんありますが、私がお聞きしたエピソードをいくつか文面に残させていただきました。

さて、ホームカミングデーはこれからも続きます。今年は医学部の皆様も、58名のご出席を頂き、今までで一番多い出席数でした。年に一度、大学を思い起こし、旧交を温め、自分自身そして藤田の心を思い出す、そんな行事に育てていければありがたいと念じて、挨拶とさせていただきます。

来年は、9回生・19回生の皆様が表彰対象年になります。

是非、奮ってご参加下さい。ホームカミングデーでお会いしましょう！



藤医会二次会開催のご報告

開催日 2025 (令和7) 年10月25日 (土) 午後8時～

場 所 ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋
28階 スカイバンケット クリスタルルーム

参加者 47名

ホームカミングデー懇親会終了後、午後8時から同じくホテルグランコート28階スカイバンケット クリスタルルームにおきまして藤医会二次会を開催致しました。

こちら50名弱の皆様にご参加頂き、和やかな時間を過ごすことができました。藤田学園ホームカミングデー懇親会に引き続き、湯澤由紀夫副理事長、白木良一統轄病院長、今泉和良病院長にもご出席を頂くことができました。大変ご多忙の中、誠にありがとうございました。

今回は、初参加の先生からも「こんな会がある事を初

めて知ったけれど、とても楽しかったので、次回は同級生を誘います」といった言葉も頂きました。

若手の先生方が先輩と一緒にホームカミングデーを楽しむようになることこそ、藤医会活動の願いの一つです。

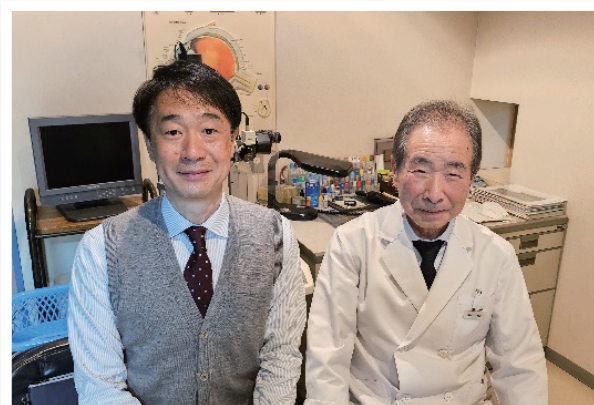
ホームカミングデーはこれからも続きます。年に一度、大学を思い起こし、旧交を温め、自分自身そして藤田の心を思い出す、そんな行事に育てていければありがたいと思います。



支部会員訪問

いの眼科 院長 猪野健一郎 先生 (1 回生、藤医会北海道支部長)

北海道支部会長の猪野健一郎先生がご開業の「いの眼科」を訪問させていただきました。北海道には半年毎の間隔で出向いており、その際に3名の先生方、札幌の猪野先生(1回生)、小樽の直江先生(6回生)と大橋先生(10回生)のクリニックへご挨拶に伺っています。「いの眼科」は札幌駅から少し離れた地域の一角にあり、いつも多くの患者様が受診され、待合室の込み具合からも地域密着のクリニックであることを実感します。ご訪問の際には患者様の診察が途切れたタイミングで診察室に通していただき、短時間ですがいつも笑顔で有意義な話題をご提供いただきます。近時では今年9月に訪問させていただき、ご近所の名物ランチをご馳走になりました。引き続きのご活躍を心より祈願しております。



(2025年4月、9月訪問 15回生 篠崎仁史)



藤田医科大学ばんだね病院 消化器内科 病院教授を拝命して

小林 隆 (13回生)

2025年3月1日付で藤田医科大学ばんだね病院消化器内科 病院教授を拝命いたしました。就任にあたり、藤医会会員の皆様にご挨拶申し上げます。ばんだね病院病院長、藤医会会長の堀口明彦先生、ばんだね病院消化器内科学主任教授の橋本千樹先生をはじめ、私を本役職にご推挙いただきました諸先生方に心より感謝申し上げます。

私は1990年に本学医学部を卒業し、2年間の臨床研修を経て、ばんだね病院の消化器内科学教室(中澤三郎教授)に入局いたしました。その後、医学部第一生化学教室(石黒伊三雄教授)に籍を移し、当時助教授であられた太田好次先生から4年間基礎研究のノウハウを学び、活性酸素による急性胃粘膜傷害の発症と進展機序に関する研究で学位を取得しました。

1996年よりばんだね病院消化器内科学教室に在籍し、他施設へ異動することなく今日に至っております。現在ばんだね病院に勤務する医師の中で最古参です。入局以来、中澤三郎教授、芳野純治教授、乾 和郎教授、片野義明教授そして、現在は橋本千樹主任教授のご指導のもと、主に消化管疾患分野の診療、教育、研究に励んでいます。加えて、2000年から延べ18年間にわたり医局長を務め、当時30名近くの大所帯であった医局運営等にも携わって参りました。

消化器病学に関する学会には積極的に参加し、日本消化器病学会指導医・専門医、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医、日本消化器がん検診学会指導医・総合認定医などの資格を早期から取得し、後進の育成を行っています。また、2018年には日本消化器内視鏡学会東海支部ガイドライン研修会会長、2023年には日本消化器がん検診学会東海北陸支部地方会会長を務めさせていただきました。

診療・研究面では、消化管疾患の中でも未だ十分な治療法が確立されていない好酸球性消化管疾患を現在専らのテーマとしていますが、この研究成果の一端が契機となって消化器内科はばんだね病院総合アレルギーセンターの診療部門に加えていただ

くことができました。「アレルギーに強いばんだね病院」はすでに周知されています。総合アレルギーセンター長で総合アレルギー科教授の矢上晶子先生のもとには、診断治療が困難と判断された様々なアレルギー症状の患者さんが全国のあらゆる施設から紹介されてきます。その中で何等かの腹部症状を訴えられる方がおいでになった場合、いつも私にご紹介をくださいます。精査を進めていきますと、好酸球性消化管疾患の患者さんがかなりの割合で含まれていることがわかってきました。それゆえに当院は他施設に比べ圧倒的に本疾患の患者さんの数が多くなってきており、当科へ直接ご紹介をいただける機会も増えてきました。総合アレルギーセンターにおける診療科の垣根を越えたお力添えの上に私の診療・研究が成立しているといっても過言ではなく、大変感謝しております。アレルギーが関与した好酸球性消化管疾患を扱う消化器内科があることを、ばんだね病院のひとつの「特色」として今後もアピールしていきたいと考えています。

また私は、ばんだね病院の地域医療連携センター長を兼任させていただいています。周辺の医療機関や地域住民の皆様にも最も頼られる「ばんだねさん」として、藤田医科大学ばんだね病院がさらに発展していくために、聊か微力ではございますが労を惜しまず尽力する所存です。藤医会同窓の皆様方におかれましては、今後とも、ご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。





支部会だより

神奈川支部会

日時:2025年6月21日(土) 18:30～

会場:横浜ベイシェラトンホテル 3階「彩龍」

2025年6月21日横浜ベイシェラトンにて第2回藤医会神奈川支部会を開催いたしました。今回は神奈川支部決起記念として、総医研で研究されておりました一瀬宏教授(現在、東京科学大学 旧東工大)に「ビオプテリン研究と藤田医科大学」と題したご講演をいただきました。藤田の歴史を交えた最先端研究のご講演はとても興味深かったです。

藤医会本部から松山先生、篠崎先生に、東京支部から平野功先生にご参加いただき大学の近況をスライドにて松山先生にご報告いただきました。一同懐かしき思うとともに藤田の進化に驚きを感じました。大学での取り組みをご教示いただき私たちも日ごろの診療に生かしていけるよう努力したいと思います。

この時期神奈川県下で麻疹の報告が多く、各地域での対策についての話題も上がりマニュアルを共有させていただくなど地域密着同窓会ならではのご指導を受けることもできました。



昨年同様、横浜ベイシェラトンの彩龍にて美味しい中華料理をいただき、2次会はスカイラウンジ「ベイ・ビュー」にてカクテルや希少なウイスキーを楽しみながら今後の同窓会運営につき話し合いました。

当会ではご家族で横浜観光しながら神奈川支部に参加してみよう!という県外の先生にも参加していただきたく、ご希望の先生には宿泊手配も承ります。詳細は、神奈川支部の先生にご確認の上、是非一緒にご参加ください。

翌日、昨年の支部会で話題となりました横浜DeNAベイスターズ「NISSAN STAR SUITES」にて家族同伴で会食、観戦を楽しみました。単なる飲み会?いや、これが神奈川支部の目指す『繋がり魔法』なのです。

(21回生 黒田理佐)

ご参加いただいた先生

特別講演:一瀬 宏 先生

平野 功 先生 (4)・山田 峰彦 先生 (10)・加藤 忍 先生 (14)・原田 英博 先生 (20)・石川 範和 先生 (21)

平野 資晴 先生 (21)・黒田 理佐 先生 (21)・眞鍋 雄太 先生 (24)

藤医会 松山 裕宇 先生 (6)・篠崎 仁史 先生 (15)

広島支部会

日時:2025年6月28日(土) 19:00～

会場:ホテルグランビア広島

コロナ禍でしばらく開催を見送っていましたが、昨年より再開しました。今年は本部より堀口明彦会長、佐々木ひと美先生(特別ゲストでご主人も)、篠崎仁史先生に参加いただき、大学の近況をスライドで紹介して頂きました。2回生から43回生まで幅広い世代が集まり、それぞれ当時を思い出しながら大変盛り上がった会となりました。私ごとですが堀口先生とは同級生で、思わず何度も「堀口くん!」と。お話ししながら当時ワープしたかのようでした。2次会は最上階のスカイバンケットで広島の夜景を眺めながら、そして3次会は流川(広島錦3丁



目)までお付き合い頂きました。メはやはりお好み焼き、お店まで配達して頂きましたが来年は熱々の鉄板で召し上がって頂きたいと思います。次回は2026年6月27日(土)同ホテルで開催予定です、また皆様にお会いできるのを楽しみにしています。(7回生 河村りゅう)

ご参加いただいた先生

室積 正人 先生 (2)・細川かをり 先生 (5)・藤田 博久 先生 (6)・西 俊雄 先生 (7)・河村りゅう 先生 (7)

相原 直樹 先生 (9)・三浦 誠司 先生 (10)・田村 千春 先生 (11)・藤田 順子 先生 (11)・佐藤 禎 先生 (16)

中田 裕子 先生 (18)・得居 靖正 先生 (25)・田邊 輝真 先生 (36)・寺川 雄貴 先生 (43)

藤医会 堀口 明彦 先生 (7)・篠崎 仁史 先生 (15)・佐々木 ひと美 先生 (16)

北海道支部会

日時:2025年7月5日(土) 19:00~

会場: JRタワーホテル日航札幌

藤医会執行部相談役の根木先生とともに北海道支部会に参加させていただきました。9月の札幌はダウンベストを着るくらい寒い年もありますが、今年は猛暑の影響で例年同時期よりも気温が高く(32度ほど)、ただ朝夕は意外と涼しく感じました。

事前参加予定者1名のキャンセルがあり、藤医会執行部2名を含め計11名で開催されました。幹事の直江先生(6回生)の司会進行、開会挨拶は支部会長の猪野先生(1回生)、乾杯は成田先生(9回生)のご発声で始まりました。開始早々から皆様の会話が弾むなか、お時間をいただき藤医会から大学近況をご紹介させていただきました。

締めめの挨拶の際に、幹事の直江先生から皆様へのご相談として、



(1)支部会開催を毎年か隔年か?

⇒ 若手の先生より「毎年開催」の要望

(2)開催会場を固定か、変えるか?

⇒ 遠方参加者の利便性より「固定」の希望

以上2点が確認されました。

来年は2026年7月4日(土)、同じ会場で開催が決定しました。(15回生 篠崎仁史)

福岡支部会

日時:2025年7月5日(土) 18:30~

会場:ホテル日航福岡 新館2階「ラ・メール」

博多の夏は山笠で始まります。祭礼期間の7月1日から15日は水法被に締め込み姿の男衆が日常に溶け込み、良い意味で街なかを闊歩しています。今年の中洲流れの栄えある台上がりには蓮澤浩明福岡県医師会会長が選ばれ医師会としても鼻高々。そんな“のぼせもん”が増える博多の街で今年も福岡支部同窓会を開催しました。7月5日、いつものホテル日航福岡です。今回は光栄なことに藤田学園理事長星長清隆先生が御来臨下さるとのこと。学園の理事長先生に御臨席頂くのは第一回(2013年)の小野雄一郎先生以来です。梅谷博史支部長、瀬戸裕司副支部長に私・柳瀬は「呉々も粗相があってはならん」と山笠の台上がり並の緊張感に包まれました。

しかし、いざ当日を迎えると星長理事長先生には大変フランクに接して頂き、ご準備頂いたスライドを使って創設以来53年を経過する藤田医科大学のグローバルな発展や世界に誇れる業績の数々、また、政府からの要請に応えダイヤモンドプリンセス号のSARS-CoV-2無症状病原体保有者128名を岡崎医療センターへ受け入れたことなどを伺い、我が国の国難に果敢に立ち向かった職員の皆様には尊崇の念すら覚えました。さらにその



hospitalityの高さに対して多くの外国人から感謝と称賛の言葉を頂戴したことやこれにまつわる映画『フロンタライン』(2025.6.13公開・岡崎医療センターも実名で登場します)のご紹介など大変ホットな話題をお話し頂き参加者全員熱心に聞き入っていました。星長理事長先生には二次会までお付き合い頂き想い出に残る楽しい一夜となり我々幹事一同もホッとしたところです。

これもひとえに黒田誠先生、松山裕宇先生のお骨折りのお蔭です。また、支部会開催に際しましては藤医会事務局の青木珠実様に随分と助けて頂きました。昨年までは丸田良子様にお世話になり、お二人にはこの場を借りて心より感謝申し上げます。来年は記念すべき10回目です。多くの方々のご参加をお待ちしています。

(7回生 柳瀬 晃)

ご参加いただいた先生

館 啓二先生 (2)・梅谷 博史先生 (3)・調 しげる先生 (3)・山近 仁先生 (3)・北口 安芳先生 (4)
宮嶋 忍先生 (4)・尾辻 和彦先生 (5)・瀬戸 裕司先生 (7)・柳瀬 晃先生 (7)・山鹿 昭彦先生 (7)
西藤 正法先生 (9)・柳瀬 豊先生 (11)・佐藤 尚美先生 (14)・石川 和史先生 (17)・富田 義之先生 (17)
上田 朗裕先生 (18)・荻野 美佐先生 (18)・福留 三保先生 (19)・伊藤 伸一先生 (21)・柳 克司先生 (21)
名護 健先生 (22)・長谷川 申先生 (22)・関屋 正俊先生 (23)・牛島 正貴先生 (23)・吉澤 直之先生 (24)
堀 まいさ先生 (25)・海野 光昭先生 (27)・中根 智幸先生 (30)・詠田 真由先生 (35)

藤田学園 理事長 星長 清隆 先生

藤医会

黒田 誠先生 (1)・松山 裕宇先生 (6)

事務局

青木 珠実 様

大阪支部会

日時:2025年7月26日(土)18:30～
会場:グランヴィア大阪 20階 「孔雀の間」

令和7年度大阪支部会を今年も無事開催することができました。(7/26開催)例年、藤医会幹部の皆様に参加いただいておりますが今回は星長理事長にもご参加いただき大学の現状を様々な角度からお示いただきました。話題となった映画「フロントライン」にも描かれたダイヤモンドプリンセス号の逸話などもお話しいたしましたが何より大学の教職員のみなさんを信頼しより良きものにしていこうとされている姿勢、行動力に驚くばかりでした。また、それに応える職員の皆さんのお力が今の大学を支えさらに向上させている姿が見えるような気がいたしました。幾度となく星長先生が「どうぞ母校をご家族に自慢してください!!」とおっしゃっていたのも印象的でした。

藤医会新会長になられた堀口先生にもご参加いただ



きました。新会長のことも星長先生は非常に誇らしげにお話しされ藤医会と大学の関わりが良好なのだと感じました。

最後になりましたが今回は新卒の上田康平先生が参加してくれました。若い先生がたの参加が少ないのがいつも心配の種ですが大変嬉しいことでした。

(17回生 三戸 隆)

ご参加いただいた先生

梅村 春彦 先生 (1)・織田 知明 先生 (8)・森川 正章 先生 (9)・辻本 哲士 先生 (9)・江川 泰人 先生 (10)
川勝 幹和 先生 (14)・額田 勝 先生 (14)・曾我 良平 先生 (15)・鈴木 珠緒 先生 (15)・樋口 徹 先生 (15)
菱田 英二 先生 (16)・三戸 隆 先生 (17)・野田穂寿美 先生 (19)・東海 玲子 先生 (19)・矢吹 陽子 先生 (20)
天方 義郎 先生 (21)・五十野 剛 先生 (21)・上塚 祥子 先生 (27)・上塚 学 先生 (27)・黒田 健一 先生 (29)
上田 康平 先生 (48)

藤田学園 理事長 **星長 清隆 先生** 藤医会 黒田 誠 先生 (1)・堀口 明彦 先生 (7)・篠崎 仁史 先生 (15)

事務局 青木 珠実 様

東名古屋支部会

日時:2025年9月6日(土)17:50～
会場:ホテルメルパルク名古屋 3F「ダリア」

令和7年9月6日藤医会東名古屋支部会がホテルメルパルク名古屋で開催されました。6回生祖父江良先生が会員の先生方にこまめに連絡し、尾張支部会の一部にも連絡をして、和やかに15名の仲間が集まりました。大槻藤医会副会長から大学の近況報告があり、続いて藤田医科大学 認知症・高齢診療科 准教授 芳野弘先生の「日常診療から見える認知症」～生活習慣病との関係～という演題で勉強させていただきました。今後とも末



永く支部会が続くことを祈念しています。

(6回生 根木浩路)

ご参加いただいた先生

村上 悦士 先生 (1)・祖父江 良 先生 (6)・今井 英夫 先生 (6)・早川 真人 先生 (11)・大島 亮 先生 (14)
山田 大 先生 (15)・前原 一之 先生 (17)・亀井洋太郎 先生 (18)・久世 明帆 先生 (22)・深谷 良 先生 (24)
住友 千穂 先生 (37)

藤医会 根木 浩路 先生 (6)・大槻 眞嗣 先生 (11)・篠崎 仁史 先生 (15)

第1回生 同窓会

日 時 | 2025年6月28日(土)
場 所 | ホテルアークリッシュ豊橋

令和7年 72会(藤田医科大学医学部1972年入学生会の会)が豊橋で開催されました

昨年の千葉県(中本君等が幹事)に引き続き、東三河に拠点がある仲間(松井、大西、鈴木昭、廣田等)が幹事で6月28日(土)豊橋駅前にあるホテルアークリッシュ豊橋の「レストランKei」で開催いたしました。ここは豊橋の町が一望でき、三河の食材を中心においしい料理を出すフレンチレストランです。会の打ち合わせを口実に何度も豊橋の町で一杯やりながら二次会は「どこにしようか」など楽しい企画を立てていきました。昨今は通信費も値上がりし、連絡などに時間をかける余裕もありませんでしたので連絡をデジタル化しようと試みましたがまだ十分ではありません。今後もブラッシュアップしていく必要を感じています。当日は貝山さん、三木さん(夫婦でメンバーですが)、村上さんはご夫婦で、金田さんはお母様と一緒に参加していただくことができました。参加者は計32名、近況や学生時代懐かしかったことなど楽しく語り合いました。まさに懐かしい顔が「なによりの御馳走」になりました。

(1回生 松井俊和)



第24回生 同窓会

日 時 | 2025年7月20日(日)
場 所 | 名古屋マリオットアソシアホテル

令和7年7月20日、名古屋マリオットアソシアホテルにて医学部第24回生同窓会を開催しました。卒後20年を記念して令和2年11月に一度予定しておりましたが、コロナ禍の影響で自粛延期となっておりました。一度は立ち消えた話を、仲間と再び盛り上げて1年前から準備を進めてまいりました。

当日は全国各地から計36名が集まり、司会挨拶、乾杯、懐かしい写真と当時の音楽によるスライドショー、歓談、来賓の大槻眞嗣先生(藤医会副会長)からのご挨拶とスライドショー、不参加メンバーからの近況報告動画、参加者の近況報告、学園歌斉唱、締めめの挨拶、そして集合写真と盛りだくさんの内容で進行了しました。

卒業以来、初めて顔を合わせるメンバー同士もいましたが、会えば一瞬で打ち解け、笑顔と会話が自然と広がっていきました。大学入学から数えて30年、変わらない仲間の笑顔、楽しい話、苦労話、健康にまつわる話題など、時間を忘れて語り合うひとときとなりました。まさに、気心知れた仲間とのかけがえのない時間でした。

2次会、3次会、そして一部は4次会へと続き、大いに盛り上がりました。幹事としては、2次会にマリオット最上階のバー「ジーニス」を予約していたものの、入店15分で「雰囲気が違う、もっと騒げる方がいい」との声が上がり、急遽近くのカラオケパーティールームへと移動。思わぬ展開にややパニック気味でしたが、それもまた思い出的一幕となりました。

(24回生 高橋研一)



第32回 全国私立医科大学 同窓会連絡会(西部会) 参 加 報 告

開催日 2025年9月27日(土) 会場 リーガロイヤルホテル大阪

参加校 金沢医科大学 北辰同窓会、愛知医科大学同窓会 愛嬌会、大阪医科大学 仁泉会、
関西医科大学医学部同窓会、近畿大学医学部同窓会 輝近会、兵庫医科大学同窓会 緑樹会、
川崎医科大学同窓会、福岡大学医学部同窓会 烏帽子会、久留米大学医学部同窓会、
産業医科大学医学部同窓会 龍ヶ池会、藤田医科大学医学部同窓会 藤医会 (11校 計66名)

藤医会参加者 名誉会長：黒田 誠、会長：堀口明彦、副会長：篠崎仁史

万博で賑わいの絶えない大阪、中之島のリーガロイヤルホテル大阪で第32回全国私立医科大学同窓会連絡会(西部会)が開催されました。

第一部は、関西医科大学附属光免疫医学研究所所長・特別教授の小林久隆氏より『がんの「光免疫療法」』と題して特別講演が開催されました。小林氏は光免疫療法を「手術、薬物、放射線、(従来の)免疫療法に次ぐ「第5のがん治療法」と説き、世界中から注目が集まる旨とその功績を熱弁されました。

第二部は「懇親会」が開催。冒頭に主幹校の関西医科大学より「関西医大の卒業生が日本最高齢になった」とご紹介があり、同大(創立97年、当時は大阪女子医専)の2回生(産婦人科医師)が現在114歳でご健在、今年7月に日本最高齢となったことを報告。2020年東京

オリンピックでは車椅子で聖火ランナーを務め、現在も同窓会室にお電話をいただくほどご健在とのことでした。

続いて第三部は懇親会の「二次会」が開催。同席の関西医大の先生は「(関西医大の)現在の理事長は、20年前に学長、10年前に理事長となり、卒業生で初めての学長、理事長となった。」と語り、約100年続く同大の歴史を併せてご紹介いただきました。また同大の別の先生からは学生の奨学金や同窓会への寄付金の近況を賜り、「大学や同窓会への寄付金は卒業生の一部の大口寄付に依存しており、全体的には決して多くはないため、幅広く寄付を呼び掛けている。」と述べられました。懇親会の席ではお話しにくい内容を二次会で拝聴することができ、有意義な時間を過ごすことができました。

(副会長 篠崎仁史)



第32回全国私立医科大学同窓会連絡会 西部会



第33回

全国私立医科大学

同窓会連絡会(全国会) 参 加 報 告

開催日 2025年10月4日(土) 午後5時～ 会場 ホテルグランビア岡山

総 会 午後5時～6時

講演会 午後6時～7時

演者: 有森裕子氏

懇親会 午後7時～9時

2次会 午後9時～

参加校

岩手医科大学同窓会 圭陵会、獨協医科大学同窓会、自治医科大学医学部同窓会 医燈会、
東京慈恵会医科大学同窓会、東京女子医科大学同窓会 至誠会、埼玉医科大学医学部同窓会、
帝京大学医学部同窓会、東京医科大学医学部医学科同窓会、東邦大学医学部同窓会 東邦会、
慶應義塾大学医学部同窓会 三四会、日本大学医学部同窓会、日本医科大学同窓会 橘桜会、
順天堂大学医学部同窓会、昭和医科大学医学部同窓会、北里大学医学部同窓会、
東海大学医学部医学科同窓会 星医会、聖マリアンナ医科大学同窓会 聖医会、
金沢医科大学 北辰同窓会、愛知医科大学同窓会 愛橘会、近畿大学医学部同窓会 輝近会、
関西医科大学医学部同窓会、大阪医科大学 仁泉会、兵庫医科大学 緑樹会、
産業医科大学医学部同窓会 龍ヶ池会、福岡大学医学部同窓会 烏帽子会、久留米大学医学部同窓会、
川崎医科大学同窓会、藤田医科大学医学部同窓会 藤医会 (29校 計124名)

藤医会参加者

名誉会長: 黒田 誠、理事: 松山裕宇

全国会は、川崎医科大学同窓会 森谷卓也会長のもと、岡山で開催されました。例年通り、東部会(埼玉医科大学)・西部会(関西医科大学)・全国会(北里大学医学部)開催報告、次年度当番校挨拶(自治医科大学:第34年全国私立医科大学同窓会連絡会全国会 令和8年11月14日(土)ホテルニューオータニ)、に加えて、全国会や金沢医科大学北辰同窓会から同窓会公式LINE導入についてのアンケート報告などが公表されました。

会議は粛々と進行し、午後6時から、元プロマラソンランナーである有森裕子氏の講演会に移行しました。

「よろこびを力に」と題して、アスリートは皆様からの応援が力になり、その力を心に感じる事が、パフォーマンスに繋がる、応援すること、応援されることが大切であることをご自身の人生の歩みとともに話されました。

今回の講演をお聞きして、同窓会は大学の応援団、医療も患者様の応援団、我々も卒業生の皆様や患者様から応援を頂きそれを力にして、同窓会活動も医療にも

務めることができていることを実感いたしました。二次会にも、沢山の参加者があり、川崎医科大学同窓会会長 森谷先生をねぎらい和やかに終了しました。

いつも、忘れかけた応援の心と呼び戻せるのが、同窓会連絡会です。元気をもらって帰名しました。

次年度当番校(自治医科大学)挨拶(第34年全国私立医科大学同窓会連絡会全国会 令和8年11月14日(土)ホテルニューオータニ)になります。

(理事 松山裕宇)



藤医会総会・教授就任記念講演会・懇親会 のお知らせ

日時 2026年2月14日(土) 午後4時30分～

場所 名古屋観光ホテル
総会・講演会：3階 楠の間

会費 10,000円

① 総会：午後4時30分～6時

※藤医会総会での議案は「代議員」により承認されることとなりますのでご了承願います。

② 卒業生教授就任記念講演会：午後6時～7時

医学部整形外科学 臨床教授 早川 和恵 (12回生)

ばんだね病院消化器内科 病院教授 小林 隆 (13回生)

医学部総合診療科 臨床教授 大杉 泰弘 (27回生)

③ 卒業生教授就任懇親会：午後7時～8時30分

皆様の笑顔と祝福こそが、このよき日の華となります。
同期の皆様をはじめ、奮ってご参加をお願いします。

藤医会名簿のお知らせ

現在、発刊を休止しております藤医会名簿につきまして、2027年秋以降に再発刊すべく準備を開始しております。

今後は、「藤医会会員で名簿をご希望される方に限定して販売」する形式を想定しております。

2026年以降、名簿情報掲載に関する確認葉書の事前郵送、名刺広告などの協賛のお願いなどを順次ご案内していくこととなりますので、よろしくお願い致します。

藤医会事務局

住所 〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98 藤田医科大学2号館 2階
一般社団法人 藤医会 (藤田医科大学医学部同窓会)

電話 ①藤田医科大学2号館 2階 藤医会室 0562-93-4025 (月～金：午前9時～午後3時30分)
②藤田医科大学2号館 14階 管理室 0562-93-2794 (月～金：午前10時～午後3時30分)

FAX 0562-93-4021